

新型コロナ・ウィルスのワクチン接種

“一家総出 / 昔 田植え / 今 ワクチン予約”

“一日百万回 / 政府 ワクチン接種 / 国民 電話かけ”（「朝日新聞」川柳）

新型コロナ・ウィルスのワクチン接種、皆さんは終わりましたか？私は、6月14日に2回目の接種を終わりました。翌日の今も、左腕が痛い。檜葉町のワクチン接種は、日時が指定です。都合が悪い人だけが、役場に変更の電話をするだけです。檜葉町では、65歳以上の接種は16日で終了して、17日からは65歳以下の人に接種することです。福島県では、相馬市の方式が評価されています。集団接種は日時指定です。日にち毎に地区を変えて接種します。その日に接種する地区には、地区と接種会場を往復するバスを、町が用意します。車の無い人でも、安心して接種会場へ行けます。

五輪は中止または無観客で開催を！

6月3日の参議院厚生労働委員会で、政府の分科会の尾身会長は、東京五輪について、「本来は、パンデミックの中で開催するということが普通でない。」と発言しました。私は、尾身会長の発言に大賛成です。全国から観客が東京等の会場へ来れば、人の流れは確実に増えます。組織委員会の資料でも、最高の人数の日には、人流は34万人と試算しています。ゴールデンウィークの観光客によって、北海道と沖縄県は、ステージ4になりました。大阪府では、第三波の緊急事態宣言を前倒しで解除した結果、直ぐにリバウンドが始まって、医療崩壊になりました。インド株の変異株の流行もあって、五輪の開催は日本の自殺行為だと思います。「安心・安全」は科学的な根拠が必要であって、精神論やギャンブルは許されません。インド株が猛威を振るっています。コロナ・ウィルス感染の優等生だった、台湾やシンガポール・ベトナムでも感染者が増えています。タイやマレーシア等の東南アジアでも感染者が急増しています。イギリスでもインド株の増加によって、イングランドのロックダウンが一月間延期されました。五輪の代表を選出できない国もあります。

スポーツと平和の祭典ではなかった 戦前—IOC と同盟国との結びつき

もしも五輪の開催が東京ではなく、IOC（国際オリンピック委員会）のバッハ会長の出身国であるドイツで予定されていたら、多分中止になったと思います。「開催国が日本だから」「日本はIOCにNOとは言えない」。日本は、IOCから見下されているのです。戦前のIOCは、同盟国（ドイツ・日本・イタリアのファシズム国）と関係を持っていました。そのこともあって、五輪の開催都市は、1936年はベルリン（ドイツ）、1940年は東京（第二次世界大戦で中止）に決まりました。聖火リレーは、ベルリン大会から始まりました。アテネ（ギリシャ）からベルリンまでです。聖火リレーは、ナチスの国威発揚と連合国内の地理や社会情勢の偵察が目的でした。戦前の五輪は、スポーツと平和の祭典ではなかったのです。



【ワクチン接種会場—檜葉ときわ苑（檜葉町）】



【スポンサーの宣伝カーが先導して、その後に聖火リレーの走者が（大熊町）】